



本道寺口之宮湯殿山神社「護摩祈祷」

護摩とは、護摩木という薪をたいて、さまざまな願いを叶えるための真言密教の修法です。護摩の火はお不動様を象徴し、薪は煩惱を表しています。この御祈祷を通じて心の迷いをお不動さまの炎で焼き尽くし、願いを速やかに成就するよう祈念いたします。御祈祷をすすんでお受けになれば、願いが清められ、家内安全・心願成就等のご利益をいただくことができます。

また、平成 22 年から 60 年ぶりに復活しました神輿渡御を今年も行います。この神輿は明治時代に当神社に奉納されたもので、文化財としても大変貴重なものとなっております。

大井沢湯殿山神社「火渡り神事」

火渡りとは、正しくは火生三味（かしょうざんまい）と言います。物体を焼き、その性質を変えてしまう力を持った火をわたります。その体験によって、自分の心の迷いが消滅し、大きな力を授かり願いを叶えることができます。火渡りの際には、素足になり心を静かに正しくし、山伏の掛け声にて、急がず走らず火の力を味わう思いでまっすぐに渡りきります。渡ったら御札を頂き、神様に礼をして結界より出ます。

岩根沢三山神社「太々神楽（だいだいかぐら）」

太々神楽は、国指定重要文化財・岩根沢三山神社の神前で毎年 2 回奉納されます。明治初年頃に、福島県伊達地方に伝わる里神楽が岩根沢に伝えられたと言われていました。昭和 12 年頃までは、大神楽（面を付けて舞う）36 座、小神楽（面を付けずに舞う）12 座もありましたが、現在演じられるのは 5 分の 1 近く（「猿田彦舞 [さるたひこのまい]」「宇賀舞 [うがのまい]」「大延舞 [おおのべのまい]」）に減ってしまいました。

岩根沢太々神楽保存会は平成 25 年 11 月 3 日に、伊勢神宮（三重県伊勢市）で執り行われた「第六十二回神宮式年遷宮奉祝奉納行事」で 7 つの舞を奉納しました。